

夏季集中研修

「学ぶこと」「教えること」を振り返る —多様化する社会の中で—

日時:2010年8月7日(土)・8日(日) ※2日間連続講座

会場:(財)海外技術者研修協会(AOTS)東京研修センター (JR・地下鉄北千住駅他から徒歩)

主催:(社)日本語教育学会 協力:(財)海外技術者研修協会(AOTS)

さまざまな情報が飛び交い、私たちの予想の枠を超えて変化する現在の社会においては、学習者も教師も変化の対応に追われ、自分のことを振り返る時間が取りにくくなりがちです。今年の夏季集中研修では2つのワークショップを行います。2日間たっぷり時間をかけた活動を通して、教師としての自分について振り返り、また話し合いながら、多様化した社会における教師のあり方や、学習者を支援する方法を探ります。



スケジュールと 申込方法

8月7日(土) 9:30 受付開始

10:00-10:30 全体説明

10:30-17:30 ワークショップ

17:30-19:00 懇親会(希望者)

8月8日(日) 15:30 終了予定

9:00-15:30 ワークショップ

◆受講料(昼食2回付):会員/学生 10,000円, 一般 12,000円

◆定員:各ワークショップ40名(先着順) ◆応募条件:日本語教育経験のある方

◆申込:申込書をホームページよりダウンロードしてご記入の上、Eメール(タイトルは夏季集中研修申込)かFAXで下記まで送付してください。折り返しEメールにて研修

詳細や振込口座等をご連絡し

ます。◆申込締切:7月5日

(月) ※定員に達し次第終了

◆宿泊:別途有料にて宿泊可

(遠方の方優先30名限定) ◆

問合せ:(社)日本語教育学会

教師研修委員会事務局



ワークショップ① 講師:徳井厚子(信州大学)

「日本語教師としての「衣」をふりかえってみよう —異文化コミュニケーションの観点から—

近年、日本語教育では学習者の多様化に伴い、様々な分野との連携がますます必要となってきています。こうした中で私たちには日本語教師としての自己を内省し相対化していく力が求められています。このワークショップは、異文化コミュニケーションの視点に立ちいくつかのアクティビティや参加者同士のディスカッション等から、批判的な内省を協働で行ない、自分自身が無意識にこれまで身につけてきた教師としての意識や行動に気づいていくことを目的とします。

【参考文献】渡辺文夫(2002)『異文化と関わる心理学』サイエンス社

徳井厚子(2007)『日本語教師の「衣」再考』くろしお出版

八代京子ほか(2009)『異文化トレーニング改訂版』三修社



ワークショップ② 講師:リチャード・ハリソン(神戸大学)

「インターネットを取り入れた学習環境のデザイン」

インターネットという情報の海で、学習者が溺れずに自力で泳ぎ、効果的に学習するために、教師は何をすれば良いのでしょうか。このワークショップではインストラクショナルデザイン(ID)の方法論を取り入れ、「設計・開発・運用・評価」という段階に沿って、日本語のwebページを使った学習活動の作り方を考えます。活動デザインの例として「WebQuest」を取り上げます。「WebQuest」は、学習者が能動的に学習に取り組めるように作られた、問題解決型学習の活動のひな型です。ワークショップの最後には、参加者がグループで考えた活動を、振り返って評価します。

【参考文献】島田徳子, リチャード・ハリソン(2001)「インターネットを利用した

Constructivistタスク型教材 —“WebQuest”の紹介と実践— 『日本語国際センター紀要』第11号 http://www.jpfe.go.jp/j/urawa/public/kiyou/kiyou11/ky11_01.html